

耳管開放症に対して 白虎加人参湯が奏効した2例

医療法人やまと会 むかいなだ耳鼻咽喉科・アレルギー科 (広島県) 高原 大輔

耳管開放症には確立された治療方法がなく、加味帰脾湯、補中益気湯、白虎加人参湯などの漢方薬による治療が試みられている。本稿では本症の治療に白虎加人参湯を使用したところ、使用後早期に諸症状の改善がみられた2症例を紹介する。さらに本症は患者の認知度が低い疾患であることから、服薬コンプライアンスの向上を図るために当院で行っているアプローチ法についてもあわせて紹介する。

Keywords 耳管開放症、白虎加人参湯、服薬コンプライアンス、1日2回タイプ

緒言

耳管開放症は、耳管が常時あるいは長時間開放することにより、自声強調、耳閉感、自己呼吸音聴取など、不快な耳症状をきたす疾患である¹⁾。患者の年齢分布は30歳代と70歳代に多い二峰性で、性別は女性に多いとされている²⁾。治療は生理食塩液の点鼻や耳管ピン挿入術などがあるが、確立された治療法が無いのが現状である³⁾。漢方薬は鼻炎や口渇などの耳鼻咽喉科疾患によく用いられ、単独で比較的早期に効果を示すため、筆者も日常診療で頻用している。今回、耳管開放症の諸症状が白虎加人参湯によって短期間で改善した症例を経験したので報告する。

評価方法

自覚症状の聞き取りと重症度評価を行った。自覚症状の強さに関しては、「最もつらい」を10とする10段階で評価した。重症度評価にはPHI-10 (Patulous Eustachian tube Handicap Inventory-10)^{1, 2)}を用いた(表)。これは耳管開放症の自覚症状による日常生活の支障度を40点満点でスコア化するものである。治療前後のスコアを比較することで治療効果判定にも用いることができる¹⁾。先行文献²⁾にしたがって9点以下をレベル1、10点から17点をレベル2、18点から25点をレベル3、26点以上をレベル4とした。

症例1 48歳 女性

【既往歴】 気管支喘息

【現病歴】 5日前から毎日、朝と夕方に右耳の耳閉感を自覚し、202X年9月2日当院初診となる。耳閉感の程度は

表 PHI-10
(Patulous Eustachian tube Handicap Inventory-10)

番号	質問項目	全くない	時々ある	よくある
1	症状のために集中しにくいことがありますか。	0	2	4
2	症状がひどいために人の話が聞き取りにくいことがありますか。	0	2	4
3	症状のためにイライラすることがありますか。	0	2	4
4	症状から逃れられないと感じることがありますか。	0	2	4
5	症状のために人との付き合いに支障がありますか。	0	2	4
6	症状のためにフラストレーションを感じるがありますか。	0	2	4
7	症状のために仕事や家事全般に支障がありますか。	0	2	4
8	症状のために家族や友人との間で緊張を感じたり関係がうまくいかないと感じることがありますか。	0	2	4
9	症状以外のことに注意を向けられないことがありますか。	0	2	4
10	症状のために不安になることがありますか。	0	2	4

10段階中6であった。自己呼吸音聴取、自声強調は無く、ティンパノメトリー検査はA型であった。自覚症状とティンパノメトリー検査の結果から耳管開放症と診断した。PHI-10スコアの合計点は24点(レベル3)であった。

【治療】 クラシエ白虎加人参湯エキス細粒(KB-34) 6.0g/日を処方したところ、服用開始4日目から自覚症状が消失した。初診から4週間後の再診時には、PHI-10スコアは0点(レベル1)となっており、終診とした。

症例2 42歳 女性

【既往歴】 なし

【現病歴】 1ヵ月前から不定期で右耳の耳閉感を自覚し、

202X年9月9日当院初診となる。問診では耳閉感、自声強調、自己呼吸音聴取を訴えた。各症状の程度は耳閉感が5、自声強調が8、自己呼吸音聴取が6であった。ティンパノメトリー検査はA型であり、自覚症状と検査の結果から耳管開放症と診断した。PHI-10スコアの合計点は14点(レベル2)であった。

【治療】 クラシエ白虎加人参湯エキス細粒(KB-34) 6.0g/日を処方したところ、服用開始翌日にすべての自覚症状がほぼ消失した。初診から5週間後の再診時には、PHI-10のスコアも0点(レベル1)となっており、終診とした。

今回報告した2例において、白虎加人参湯に起因すると考えられる副作用は認められなかった。

考察

今回、耳管開放症の患者に対して白虎加人参湯を単独で開始し、1例目は服用開始4日後、2例目は服用開始翌日からすべての自覚症状が消失するという著効例を得た。耳管開放症に対する漢方治療の報告はいくつか見られるが、そのほとんどが加味帰脾湯⁴⁾や補中益気湯⁵⁾であり、白虎加人参湯での報告は限られる。先行の症例報告^{3, 6)}では、著明な水分不足を訴える症例に処方していたが、当院では耳管開放症患者の状態に関わらず白虎加人参湯を処方している。今回筆者が経験した2例においても口渇やほてりなど、脱水の兆候は認められなかった。

耳管開放症の原因は急激な体重減少など多岐にわたるが⁷⁾、耳管組織の乾燥によっても耳管が開放しやすい状態になると推察される。そのため、症状の改善には耳管の水分保持が重要だと筆者は考えている。白虎加人参湯は、熱を冷まして乾燥を潤す作用を持つ漢方薬であることから、白虎加人参湯が持つ水分保持作用で耳管組織を滋潤させることによって、開放されている耳管を閉じるように働いたのではないかと考えられる。しかしながら、耳管開放症に対する白虎加人参湯の薬理作用は明らかになっていないため、作用機序の解明は今後の研究が待たれるところである。

耳管開放症は患者の認知度が低い疾患であるため、患者が診断結果をすんなり納得できないことが多い。診断結果を受け入れられないままだと治療に前向きになれず、服薬コンプライアンスも低下してしまい、その結果、満足な治療

効果を得られず処方医に不信感を募らせる、という悪循環が発生する。患者の服薬コンプライアンス向上にむけて、当院では2つのアプローチで対策を実施している。1つ目は、診断結果を患者が納得しやすいよう、本疾患の病態と治療法について時間をかけて説明することである。患者に自分の状態を理解してもらった後に、「この白虎加人参湯という漢方薬は効く人には効きますから、まずは試してみてください」と説得すると、指示通り服薬できる患者が多い。2つ目は、服用回数をできるだけ減らすことである。漢方薬は1日3回服用が一般的であるが、クラシエの白虎加人参湯には細粒2規格(1日2回タイプと1日3回タイプ)と錠剤があり、当院では細粒の1日2回タイプを使用している。疾患の理解度が低い状態での服薬は苦痛を伴うので、服用回数を減らすことが患者負担の軽減に繋がると考えている。さらに、患者に服薬の意志があっても、1日3回タイプではお昼に飲み忘れることが多いため、お昼の飲み忘れを予防できる1日2回タイプは薬物治療において有用であるといえる。

結語

耳管開放症の患者に対して白虎加人参湯を単独で処方し、数日で自覚症状とPHI-10のスコアの改善がみられた2例を報告した。白虎加人参湯は証に関わらず耳管開放症治療に有用な薬剤であることが示唆された。

【参考文献】

- 1) 池田裕吉: 耳管開放症の病態と手術治療. 頭頸部外科 29: 7-11, 2019.
- 2) 原 将太 ほか: 耳管開放症診断基準案2016による耳管開放症確実例の検討. Otol Jpn 31: 50-57, 2021.
- 3) 大田重人: 特集・耳管開放症と漢方薬 - 最新の知見 -. MB ENT 229: 25-34, 2019.
- 4) 石川 滋: 耳管開放症に対する薬物療法の試み - 加味帰脾湯の使用経験 -. 耳鼻臨床 87: 1337~1347, 1994
- 5) 竹越哲男 ほか: 特集・耳鼻咽喉科漢方処方ベストマッチ 耳管開放症に対する第1選択薬としての補中益気湯の有効性. MB ENT. 185: 23-28, 2015
- 6) 呉 明美 ほか: 耳管開放症に対する漢方治療の検討. 耳鼻臨床 114: 501-505, 2021
- 7) 小林俊光: 耳管閉鎖障害の臨床. 第106回日耳鼻宿題報告モノグラフ. 笹氣出版印刷. 79-101, 2005